

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度の授業改善のポイントに記載した、内容にかかわらず意見をもつことや、表現しようとする意欲について価値付けるよう、指導を行った。
- ・普段の生活と結びつけた指導を行い、学習内容と生活との関わりに気付く場面があった。

(2) 課題

- ・用語についての知識、理解が足りず、指導内容を定着させることが難しかった。
- ・「生命・地球」領域の知識・技能の定着は昨年度に引き続き、不十分である。
- ・思考・判断・表現について、全国平均を下回っている単元が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（同一集団の経年比較）

	令和7年度	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・目標値をやや下回っている。	/	/
第5学年	・目標値を大きく下回っている。	・目標値を大きく下回っている。 (第4学年時)	/
第6学年	・目標値と同程度である。	・目標値をやや下回っている。 (第5学年時)	・目標値をやや下回っている。 (第4学年時)

(2) 令和7年度の結果分析（観点別）

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「生命・地球」領域の植物の育ち方では、植物の育つ順序や植物の構造についての理解が不十分である。 ・方位磁針の使い方や、電流が流れる回路の作り方など、実技を通して得る知識についての理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石の性質について、実験の結果から、磁石と物の関係や、磁石の極を考察する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事としてとらえることができる問題や、実生活に身近な内容では率先して問題に取り組むことができる。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ものの温まり方の理解に課題がある。(5年) ・ふりこの振れ幅については 	<ul style="list-style-type: none"> ・温度による体積の変化の違いについては十分理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水が氷になる時間の経過など、実験結果を表やグラフなどに表そうとすること

十分理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液を見分ける方法が適当かどうかを判断し、その理由を説明することに課題がある。 	<p>は十分できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表やグラフから情報を読み取ろうとしたり、考察しようとしたりする姿勢に課題がある。
-----------	--	---

3 授業改善のポイント（観点別）

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、「生命・地球」領域は児童の理解度が低いため、動画や実物を活用し、繰り返し学習できるようにする。 実際に実物を観察した結果や考察を学級全体で共有し、児童の言葉で表現させることを通して知識としての定着を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の予想や結果の考察など、思考場面で想像を広げることや、自分の考えを文章に書く語彙力が足りないため、予想や考察につながる単語を児童に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科に対する興味や関心を引くために、単元のはじめで見いだした問題だけでなく、児童の疑問についても単元の学習の中で触れるようにする。

・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 実際に授業の中で実験したり、観察したりできている内容については、理解度が高い。引き続き、できるだけ多く実験・観察の機会を設けていく。（5年） 高学年になり、覚えなければいけない言葉が増えたことで、言葉の意味を理解しきれない児童が多い。毎回の授業において復習する時間を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を基にした問題作りや、結果を基にした考察など、意見や考えに至った根拠を常にもたせる指導を行う。（5年） 学習内容を、普段の生活に結び付けて指導することで、より児童に身近な内容として理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを表現する時に、文章だけの表現ではなく図や絵などを用いた多様な表現を認める。（5年） 単元の計画を児童と立てる際に、児童から出た疑問は単元の中で、できる限り解決できる場面を設ける。